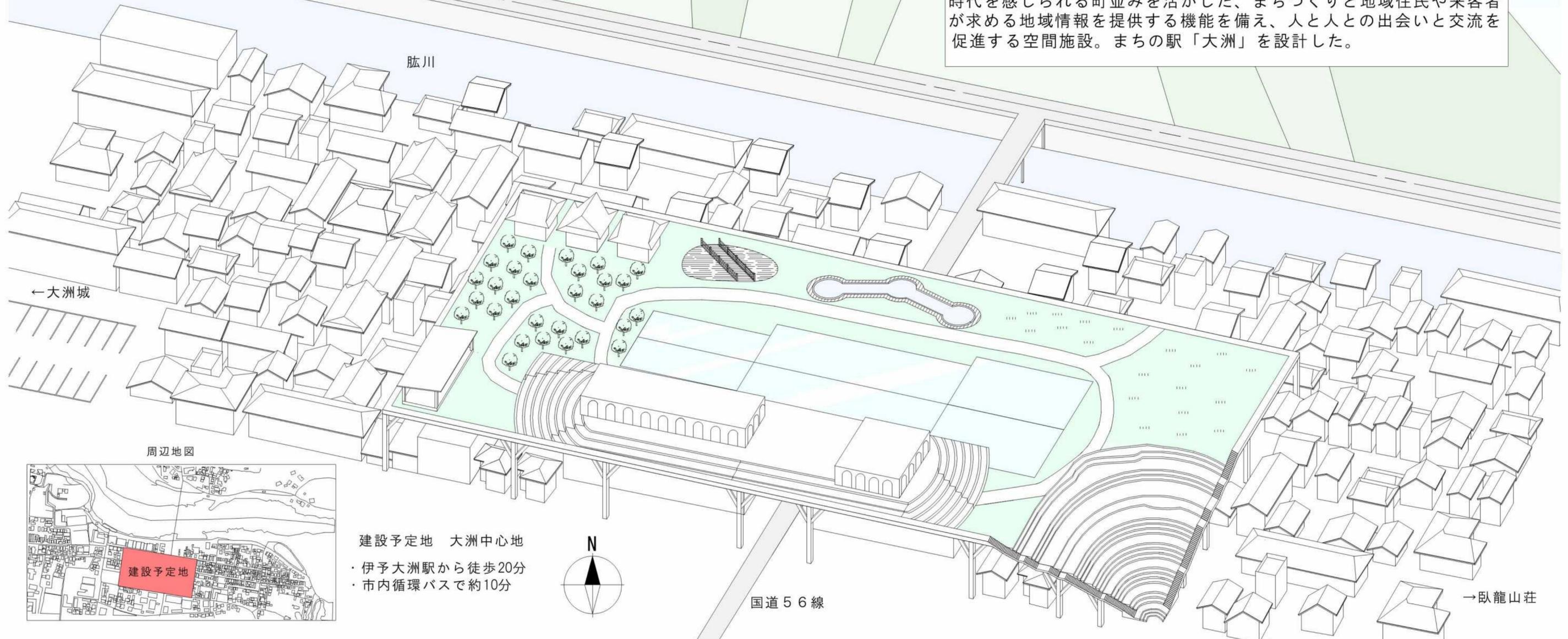


まちの駅「大洲」

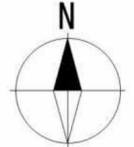
～自然と歴史が共存する街の魅力～

愛媛県大洲市は「伊予の小京都」と呼ばれており、歴史的な建物や昔ながらの懐かしい町並みが残っている。また、海、山、川が織りなす多彩な景観や、肱川を利用した「鵜飼い」、「いもたき」など観光資源を通じて、季節の移ろいや人々の温もりを感じることができる。

しかし高齢化や人口減少、建物の老朽化などの問題により町並みの維持管理や伝統文化における担い手の確保が危ぶまれている。そこで時代を感じられる町並みを活かした、まちづくりと地域住民や来客者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人との出会いと交流を促進する空間施設。まちの駅「大洲」を設計した。



建設予定地 大洲中心地
・伊予大洲駅から徒歩20分
・市内循環バスで約10分

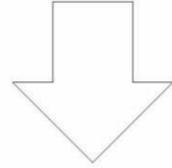


国道56線

→臥龍山荘

現在の課題

大洲中心地へ行くには、伊予大洲駅から徒歩約30分、松山市から車で1時間半かかるのに対して大洲城や臥龍山荘の観光場所にしか人が集まらない。そのため滞在時間も少なく、歴史ある建物や、文化を知らずに帰ってしまう。



まちの駅「大洲」を設計
まちの駅とは人、テーマ、まちをつなぐ拠点である。

- 1 休憩機能・・・疲れを癒す屋外庭園、大衆浴場
- 2 案内機能・・・大洲のことが丸分かり観光案内所
- 3 連携機能・・・木材と触れ合う体験施設
- 4 交流機能・・・歴史を感じるまちづくり

4つの機能をまち全体に分けることで観光客が観光地だけを訪れるのではなく、町が一つの空間となり観光客と地域住民とのコミュニティ形成を図る。

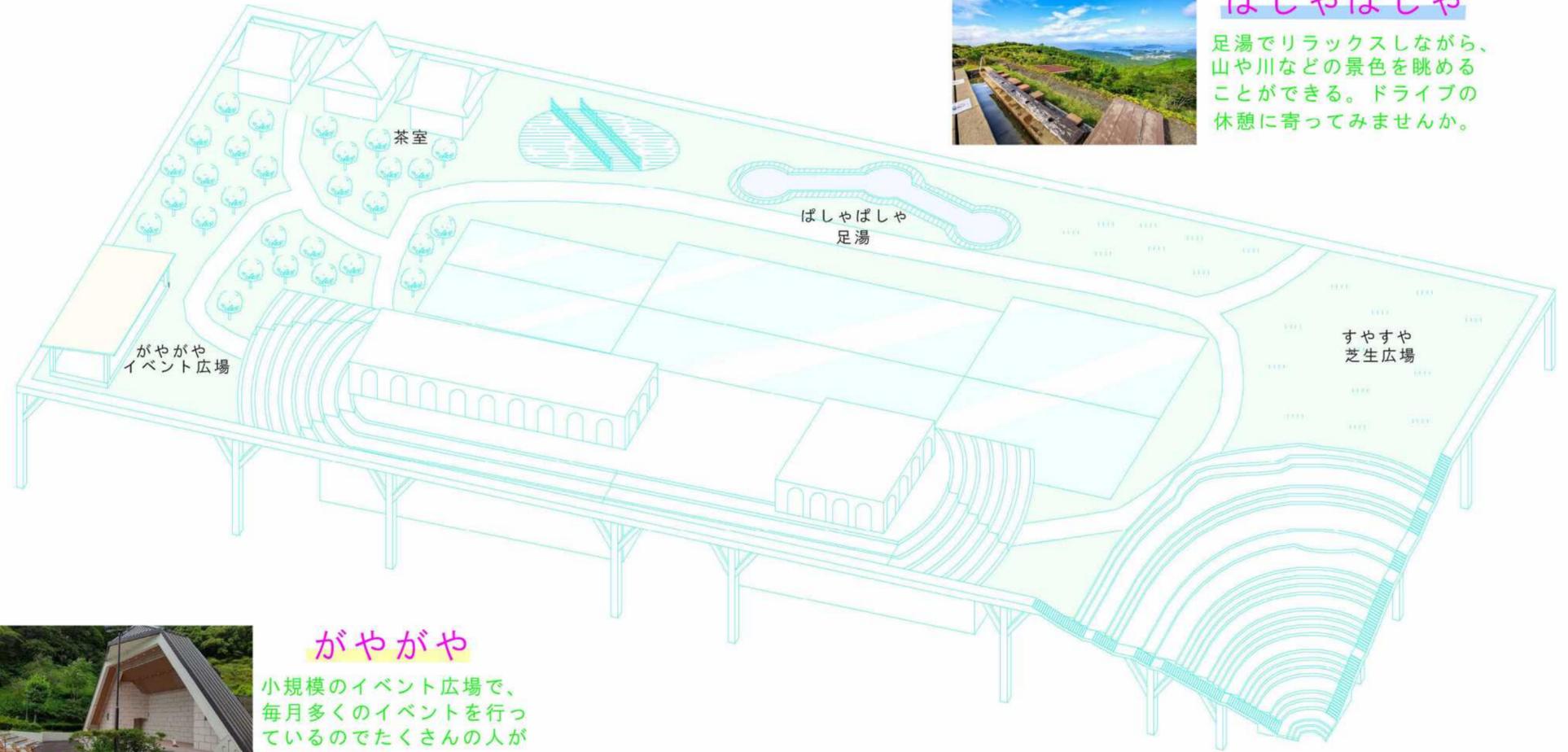
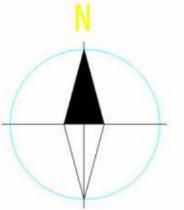
観光客には非日常を味わえる空間として
地域住民には癒しを与えてくれる空間を作る。

1 休憩機能

屋外庭園

計画案

まちの上に庭園をつくり、周りの自然との調和を図る。庭園の真ん中にはガラスがあり、下にある住宅街にしっかりと太陽の光が入るようにした。庭園は大人が楽しむ場所というイメージがあるが、この庭園では「大人だけでなく子供も楽しめる空間」をコンセプトに設計した。例としては、オノマトペを庭園に取り入れ「がやがや」「すやすや」「ばしゃばしゃ」スペースを造った。



ばしゃばしゃ

足湯でリラックスしながら、山や川などの景色を眺めることができる。ドライブの休憩に寄ってみませんか。

がやがや

小規模のイベント広場で、毎月多くのイベントを行っているのでたくさんの方が集まりやすい。



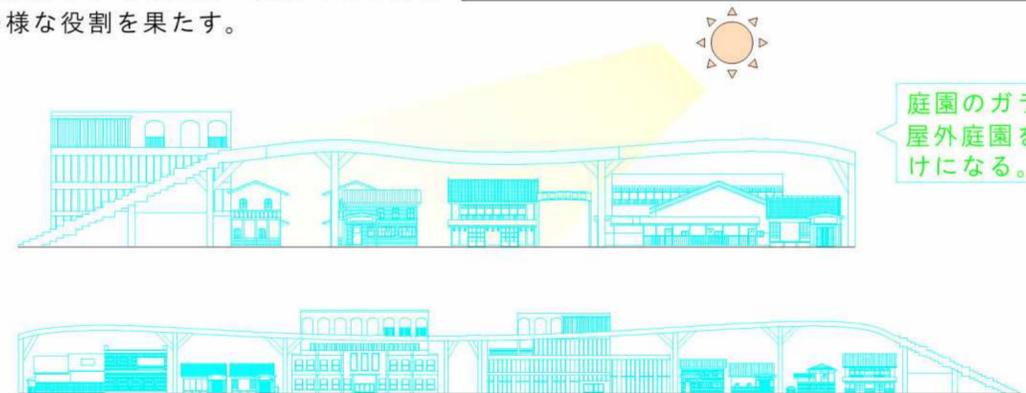
防災にも役立つ庭園



すやすや

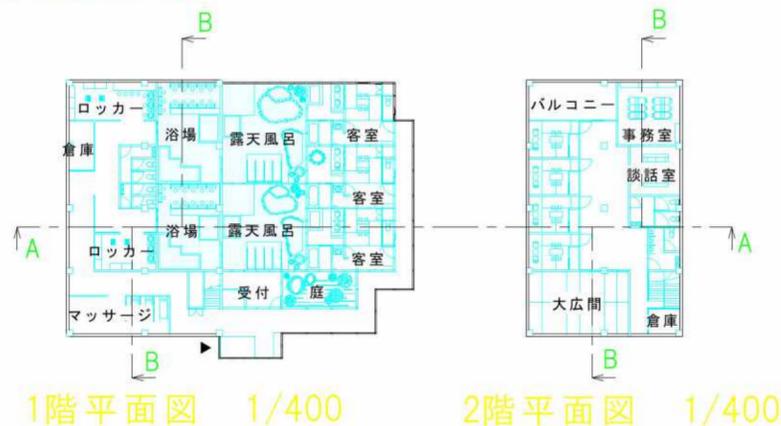
芝生や植物があり、自然を間近で感じられる。子供も楽しめるスポーツの活動の場所としても活用。

平成30年に西日本豪雨で肱川が氾濫し、高さ8.11mの洪水被害を受けた。そこで防災対策としてまちの上に庭園を設計し、地域住民の避難できる高台の様な役割を果たす。



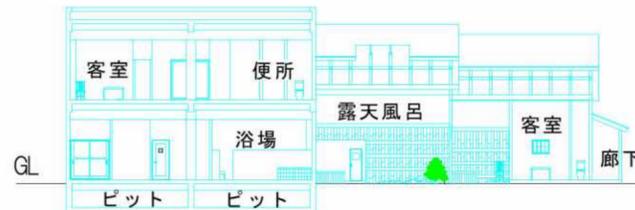
庭園のガラスはまちと屋外庭園を繋ぐ吹き抜けになる。

大衆浴場 ~疲れを癒す憩いの場~

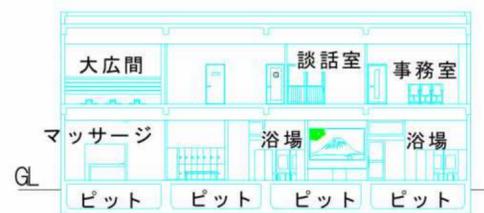


計画案

時代別エリアによって外観が変わり町並みに溶け込んでいる。客室にも露天風呂があり、家族ずれも立ち寄りやすい。日々の疲れを温泉で癒しませんか。



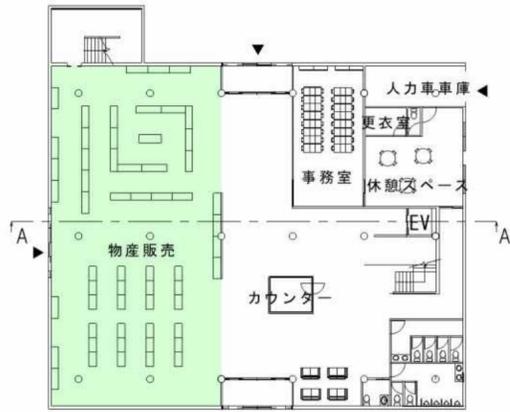
A-A断面図 1/400



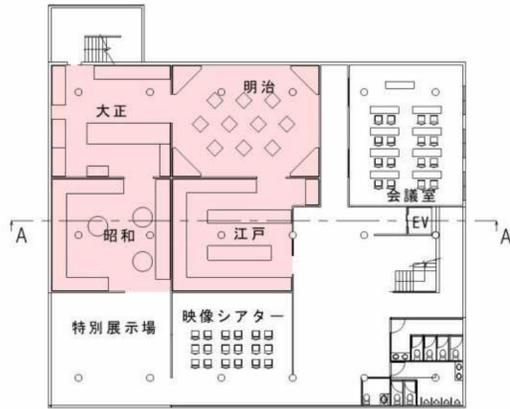
B-B断面図 1/400

2 案内機能

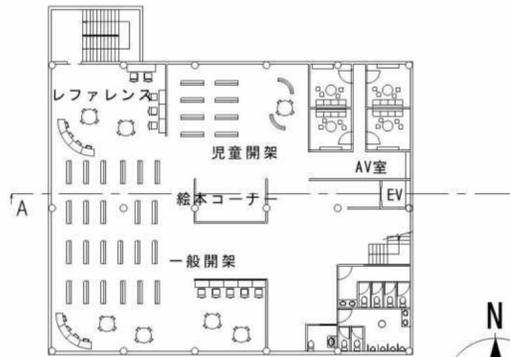
観光案内所「あさもや」



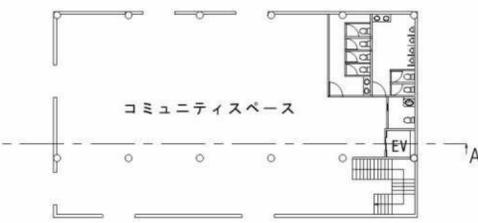
1階平面図 1/350



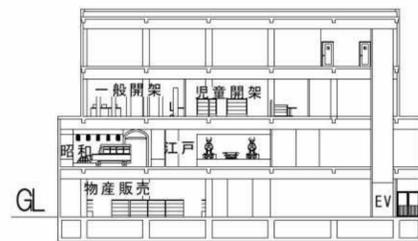
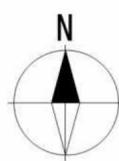
2階平面図 1/350



3階平面図 1/350



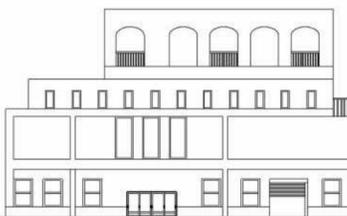
4階平面図 1/350



A-A断面図 1/400



南立面図 1/400



東立面図 1/400

産業の空間

特産品や農作物を販売している多種多様な店舗が集まる。販売されている商品は、どれも選りすぐりの魅力的な商品で、お土産選びや買い物などにはぴったり。



歴史の空間

大洲には江戸から明治時代にかけての建物がたくさん残っている。部屋によってその時代の自然や産業、文化を映像や展示物で感じ、気分はまるでタイムスリップ。



計画案

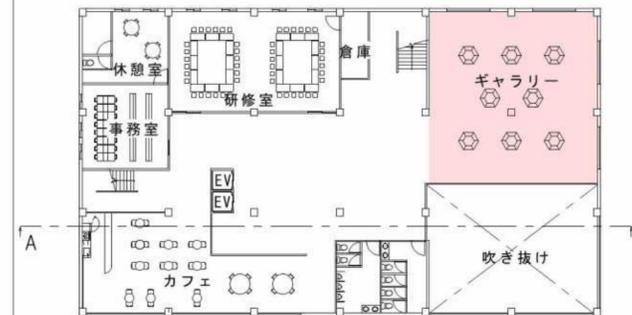
観光案内所では、地域住民が案内人として訪れた人に地域の情報を丁寧に教える。また、図書スペースがあるので、観光客のほか地域住民の一息つける場所となっている。ぜひふらっと立ち寄っていただきたい。

3 連携機能

別館「よるもや」



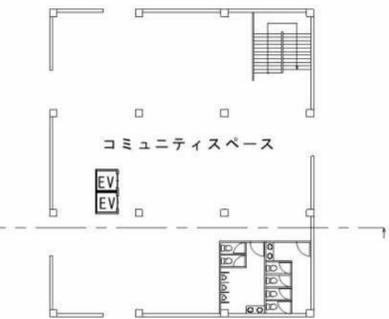
1階平面図 1/350



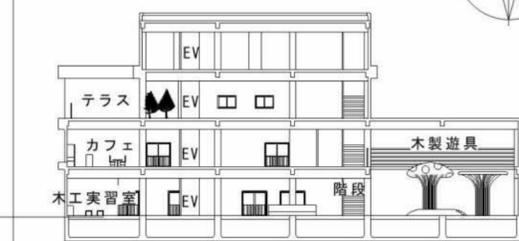
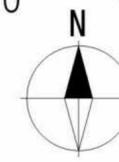
2階平面図 1/350



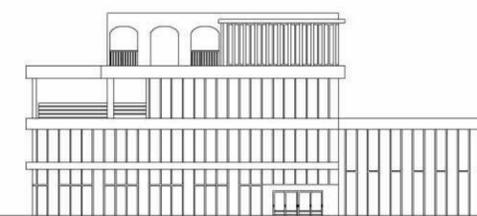
3階平面図 1/350



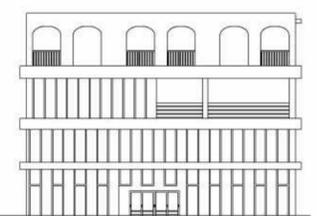
4階平面図 1/350



A-A断面図 1/400



南立面図 1/400



西立面図 1/400

体験の空間

木の魅力を体感できる遊びコーナーや手作り木工室をはじめ、県産材をふんだんに使用した館内の内装、家具、遊具に囲まれた空間での体験を通じて愛媛の木材をまるごと体感できる。



木育の空間

「子供から大人まで楽しめるをコンセプトに、館内のは子どもだけでなく、誰でも手に取って楽しめるよう木の文化を遊びで通じ、学べる。



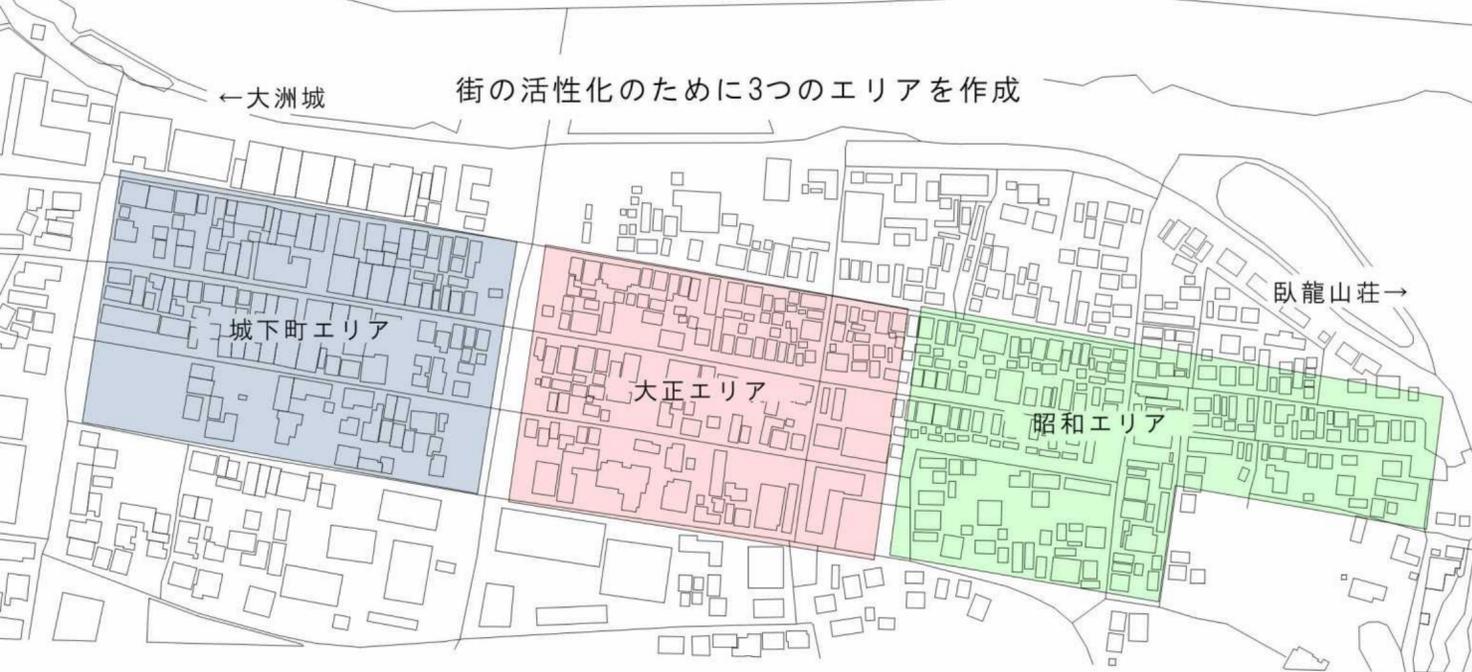
計画案

この施設では地域の産業に触れて貰いたいと思い設計した。大洲は木材加工が盛んなため、若者や子供、来客者が地域の産業を体験できる建物を建築し、伝統産業を支える役割を果たす。木材遊具を作ることでも子供も楽しめる空間を提供する。

4 交流機能

計画案

空き家を修復して宿舎にし、収益化することで町を活性化させながら町並みを保存する。宿舎、飲食店、銭湯を町に分散化させ、街全体が分散型ホテルの様な役割を果たす。また古民家宿舎やゲストハウス宿舎などを通じて地域住民と観光客との相互理解が高まり、交友関係が深まることを期待する。



城下町エリア

城下町を肌で感じる特別な体験

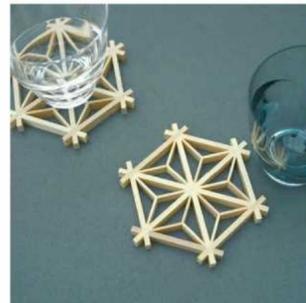
大洲城は全国で初めてお城に泊まる「キャッスルステイ」が行われている。そこでお殿様体験や当時の戦国武将になりきる「戦国武将なりきり体験」を開催。城下町エリアでは教科書や資料からは感じることのできない実在した建物や、雰囲気を感じることができる。



大正エリア

伝統産業を生かしたアート・クラフトワークショップ

大洲では大洲和紙や竹細工、木材加工などの産業が盛んである。そこで組小細工でつくるコースターや手漉き和紙づくりなどの伝統産業を地域の人に学び、体験する施設が建ち並ぶ。大正時代独特の和と洋が絶妙に入り交じった魅力あふれる町並みを味わえる。



昭和エリア

地域の食文化を感じる古民家レストラン

大洲の特産品である栗やシイタケなどを使った「いもたき」や「とんくりまぶし」を食べることができる。また、大洲産のキウイをクラフトビールにして提供する。古民家の昔ながらの温かみや味わいを感じながらいつでもお祭り気分を味わえる。

